

沖縄での米軍関係者による凶悪犯罪は、1972年以降明らかになったものだけで約6000件と報告されています。これは、氷山の一角ともいわれており、沖縄県民は基地あるが故の犯罪の恐怖に脅かされ続けています。

2014年の名護市長選挙、沖縄県知事選挙、総選挙、そして2016年の参議院選挙、いずれの選挙も「新基地建設反対」を掲げる候補者が勝利しています。

こうした沖縄県民の「苦しみ」と「基地をなくせ」の思いを無視し、安倍政権は新基地建設に向け暴走を続けています。在日米軍基地専用施設の74%が集中している沖縄に基地を押し付ける政策を今すぐ中止すべきです。また、米軍犯罪多発の要因となっている「日米地位協定」の抜本改正を行うことは急務です。



# 県民の声を聞いて!!

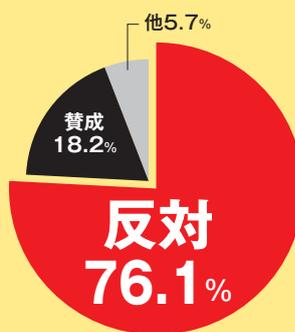
基地のない  
沖縄を

## 世界一危険な普天間基地は閉鎖 辺野古新基地は建設中止を

普天間基地は宜野湾市の中心部にあり「世界一危険な基地」と称されています。2004年8月、沖縄国際大学に墜落したCH53Dは、ハワイから岩国に配備されていた大型輸送ヘリコプターで、普天間での訓練中に墜落しました。ただちに閉鎖以外にありません。

また、政府は「普天間基地の固定化を避けるためには、辺野古の新基地建設しかない」と、辺野古の新基地建設を強行しようとしています。辺野古新基地は米海兵隊のアジアへの一大出撃拠点となるものです。建設工事はただちに中止すべきです。

辺野古新基地建設  
反対76.1%



翁長知事の新基地反対の姿勢賛成83%



沖縄タイムス  
2015年4月世論調査

県民は基地NO!

## ヘリパッド建設強行は 人権蹂躪・民主主義の否定

政府は、参議院選挙投票日の翌日から、沖縄・高江でのヘリパッド(着陸帯)建設を強行しています。全国から機動隊員500人を動員して、県道を封鎖し、抗議する市民を弾圧するとともに、自衛隊のヘリコプターまで投入し機材を搬入しています。

「自然と住環境を壊さないで」という地元住民の声を受け止め、工事はただちに中止すべきです。

署名にご協力を